



探訪 長門のいしおみ ⑪

田中柏陰漢詩碑

俵山湯町、熊野神社にこの碑がある。刻まれている漢詩（七言絶句）は、清流「正川」に沿って軒を接する、俵山温泉郷のたずまいを詠んだもの。騒々しい市街地から離れた、山あいの静かな風景を詠みこんでいる。

（原文の読み下し）
 当に正川に枕み屋幾の間なるべし

水声林影塵寰を隔つ

晚来浴罷み幽時垂んとす

榻を移し閑に看る秋葉山 柏陰主人

（大意）

——「正川」を目の前にして家々の間は
 いくばくもないが、せせらぎや木々の影
 は、わずらわしい俗世間を隔ててくれる。



日暮れが
 た湯浴を
 終えれ
 ば、もう
 すぐ森閑
 とした静けさが訪れようとする。腰掛を
 移動し、しずかに秋葉山を望む——



この詩の作者は、著名な日本画家（南画系）・田中柏陰（防府市の人。1866—1934）。

柏陰は静岡の出身で本姓は中川。明治16年（1883）、京都の田能村直入（南画家。現、京都市立美術大学の創立者）の門に入つて南画を学んだ。才能を認められ一旦田能村を継いだ。わけあって明治33年防府市大崎、田中幾太郎の養子となる。京都、防府をはじめ各地に画塾を開き、多くの弟子を養成した。

柏陰は湯本温泉にも来遊、三ノ瀬の窯元・田原陶兵衛家に淡彩画を遺している。それには、署名とともに「大正10年（1921）辛酉小春日」とあり、彼が俵山温泉を訪れたのもこのころのことと思われる。

（正）

（寄稿・長門市郷土文化研究会）

正しく使って楽しい花火

夏の夜空を彩る花火は種類も多く、子供だけでなく大人にとっても楽しいものです。花火で遊ぶときは使用方法をよく読んで、特に次のことに注意しましょう。

- ・子供だけで遊ばせない。
- ・花火を人や家のほうに向けたり、燃えやすいものの近くでしない。
- ・水バケツを準備して、使い終わった花火は必ず水につけて火を消す。
- ・火が消えても筒をのぞかない。

【平成12年度全国統一防火標語】

「火をつけた あなたの責任 最後まで」

ハイ！
 こちら119



火災時の問い合わせは

☎22-1414

長門地区消防本部・中央消防署

☎22-3111